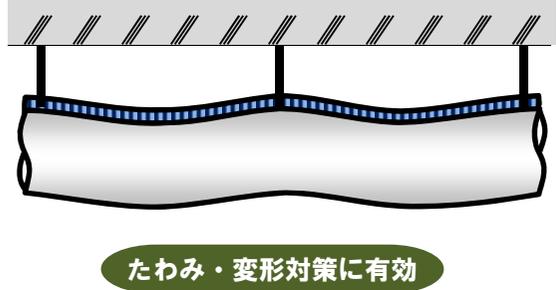


背びれ付フレキダクト

写真・イメージ	概要（効果・特徴・メリット等）																	
 	<p>概要 保温付フレキダクトに吊り専用の部材(背びれ)を取り付けたものを使用する工法</p>	<table border="1" data-bbox="949 352 1458 469"> <tr> <td>設計</td> <td>躯体施工</td> <td>内装施工</td> <td>外構施工</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					設計	躯体施工	内装施工	外構施工					○			
	設計	躯体施工	内装施工	外構施工														
			○															
	<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ■現場工数削減 <ul style="list-style-type: none"> ・材料費はコスト増だが人工低減を図れ短工期 ■品質向上 <ul style="list-style-type: none"> ・背びれの吊ピッチ穴が500mmのため目視で吊りピッチが確認できる ・吊バンドによる断面欠損の心配がない <table border="1" data-bbox="949 807 1585 924"> <tr> <td>Q</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>S</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table>	Q	C	D	S	E	△	○	◎	○	○	<p>備考 注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップダウン部には補助の吊材が必要になる場合がある。 ・背びれ付フレキダクトは吊りピッチが同径のスパイラルダクトに比べて短くなるので注意する。 ・加湿系のダクトには、内面がビニール被覆のタイプを採用する。（内面綿布製品は、カビ発生の恐れがある。） 						
	Q	C	D	S	E													
△	○	◎	○	○														
<p>適用範囲 仕様</p>	<p>長尺フレキの代替として</p>																	
<p>用途</p>	<p>全て</p>																	